

上新電機オーディオ試聴会 (2015.6.21)
—iFI オーディオの Retro Stereo50 の試聴—

1. はじめに

ジョーシン日本橋1ばん館オーディオ試聴会で開催された iFI オーディオの Retro Stereo50 の試聴会に行ってきました。

この Retro Stereo50 は昨年のオーディオセッションでも聴いていますし、新着雑誌記事紹介でもとりあげており、オーディオ誌上の評判も上々で、是非じっくり聴いてみたいと思っていたところです。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/01/e05ab7fa35a101382d6410d7903c8476.pdf>

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/08/ef60b5eb35c7b14815eb87fad9eb71d2.pdf>

2. 試聴会の進行

メーカーのサイトの説明にあるとおり、入力系統が多機能かつ先進的でありながら、真空管プリメインアンプというレトロな雰囲気も併せ持っています。

<http://ifi-audio.jp/stereo50.html>



試聴は、ディーラーの嶋田氏から機器の概要説明があり、PCからロックのライブ配信

の 256s DSD 音源送り出しの DSD Native 再生から始まりました。馴染のない音源なので良し悪しの判断はできませんが、ライブ感の再現はあったように思います。ここから評論家の田中伊佐資氏による解説とデモに移り、まずはヤマハのプレイヤーでジャズの CD と同じ演奏のガラス CD がかかりました。これも馴染のない音源なのでガラス CD になったことによる音楽再生上のメリットは十分に判断できませんでしたが、音の透明度が増し、演奏の良い意味でのアグレッシブさが出ていたように感じます。

ここまでは、ヤマハのプレイヤーのアナログ出力をライン入力してのプリメインアンプとしての評価でしたが、ここからはアナログ出力のライン入力とデジタル出力を S/PDIF 入力しての DAC プリメインとしての比較になり、パーカッションと先ほどのジャズの再生をライン入力とデジタル入力を切り替えて比較していきました。ヤマハの内蔵 DAC の音質もなかなか良いのですが、Stereo50 の DAC を通すと、音の鈍りが消え、抜けがよくなります。Stereo50 の真空管の EL84 は GT 管や ST 管に比べると、概して低域の力強さに弱点がありますが、低域までクリアーさが増した感じがしました。

ここからは ZYX の R50 というカートリッジを装着した DENON のアナログプレイヤーでの再生になり、Stereo50 の内蔵フォノイコの評価になります。ビートルズとボーカルがかかりましたが、声のニュアンスは十分伝わったと思います。次のカンターテ・ドミノの初期盤と後発盤の説明があり、比較試聴がありました。後発盤と CD を持っていますが、初期盤の圧倒的な良さが分かりました。さらにエレキギターを挟んで、レッドツッペリンの英国プレスと米国プレスの比較になり、米国プレスの方が良いという声もありましたが、鳴っている音に対する閉口の度合いが英国プレスの方が小さいと感じました。外国プレスと国内プレスで、また初期盤と後発盤でイコライザーカーブが違うという事例は数多くありますので、音の違いはそういったことかもしれません。

ここからは、スピーカーを JBL から LS3.5 に替えてボーカル 2 曲とジャズがかけられましたが、サイズの割には意外に検討しているという印象でした。

全体的な印象として、かけられた音楽そのものは理解できないものが多かったにも拘わらず、どのような入力系統でも、価格以上のパフォーマンスが得られ、自身で iPhono、micro iDSD、EL84 のアンプなどを使用おり、ロジャースのスピーカーや LEAK のステレオ 20 も知っていますので、違和感なく聴けました。現在使用している、タンノイのオートグラフ・ミニや EMI の通称アビーロードスタジオモニターと組み合わせたらどうだろうか、EL84 を TELEFUNKEN 製に替えたたらどうだろうかと思いを楽しんでいます。なお、ZYX のカートリッジはストレートで色付けのないものであるように感じましたので、機会があれば評価してみたいと思います。

歪だらけの電子楽器の音楽に、良質のオーディオ装置がはたして必要かどうかには疑

間が残りますが、田中氏のアナログにかける熱意とオーディオ人口を増やしたいという思いから本音の話を聴けたのは収穫でした。また、田中氏も自身も iPhono の L/R 独立 2 台使用をしているなど、聴く音楽は違っても、音に関する認識のオーディオ的な共通点はあるようにも感じました。